

令和5年度 中央区立京橋朝海幼稚園 外部評価報告書

外部評価委員：松岡 誠一郎 徳堂 康彦 森田 俊秀 鈴木 康介 田中 悟志 金子 純平
野口 敏朗 石井 卓之

報告書作成者：石井 卓之

評価時期 令和 6年 3月

1 重点目標の評価

重点目標1「自然環境の中で知的好奇心を育む」

・都会では少ないからこそ、自然物との関わりが幼児には重要である。評価指標の「命ある対象との関わり、直接体験」に関して保護者、教員の肯定的評価は100%であり達成できていた。「よくあてはまる」の教員評価が0%、保護者が71.4%、この乖離は園の種まきの時期を逸したとの反省に起因するかもしれないが、地球温暖化による環境の変化を踏えた教育計画の改善は、今後の課題となる。

・土づくりから始まり、水やり等を通して行う栽培体験に留まらず、収穫した野菜を調理して会食につなげた学びの連続性は高く評価できる。

重点目標2「人と関わる力を育む」

ごっこからごっこ遊びへと進めたり、園内の異学年交流、小学生や未就園児、地域との交流を積極的に進めていったりしている。評価指標の「やりたいことの実現、各種の関わりを広げる」に関して保護者、教員の肯定的評価はそれぞれ100%、75%であり、概ね達成できていた。教員は更なる遊び以外の交流を進めようとするために評価が低くなっているが、数字には表われていないが取り組みの効果としては評価できる。

重点目標3「健康でたくましい体をつくる」

・経年変化がないので明確には分からないが、親子で行う運動遊びの機会が増えたことは、保護者や教員の肯定的評価が75%で概ね達成したことに繋がっていると考えられる。

・評価指標の「自分の力を伸ばすことの充実感や達成感を感じるは、保護者が何を規準に判断するのが難しい。そのため、他の重点にはない「あてはまらない、分からない」が多かった要因の一つとして考えられる。

2 今後の改善に向けた意見

・教育の場で評価を実施すると課題を完全する方向に進む傾向がある。幼児期は高い意欲を更に伸ばすことも大切なので、よい取り組みをさらに高めながら、繰り返し行っていくことも重要だと考える。

・重点2は今後、小学校低学年を先生役にして園児が1年生体験をするなど、学習を通しての関わりを広げ方を模索するなど、新たな交流の開発を行ってほしい。

・重点目標の教員評価に「主体的に関わる」という文言があるが、幼児のどのような姿が主体的というものであるのかを、教員間で「具体的な幼児の姿」として、評価規準の統一を図ることで、より生きた評価ができ、改善策が明確となる。

3 その他の意見

・「だれでも幼稚園」を年10回実施する中で、幼稚園経営や運営を周知するとともに、子育ての悩みを聞き取るなど、入園に向けての積極的な広報活動を実施していることは高く評価できる。今後も可能な限りの実施と更なる内容の工夫に期待したい。

・評価指標と保護者アンケートの項目が一致しているので、整合性の取れたよい評価となっている。今後も続けてほしい。